

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和7年2月14日

No. 29



3学期授業参観ありがとうございました(1月30日)



国の方針を受けて、令和6年4月「鈴鹿市教育振興基本計画(令和6年度～令和9年度)」が改訂されました。ここには、これからの「めざす教育目標」や具体的な「基本事業」等が説明されています。その中で、特に「端末活用による学びのスタイルの拡大」「人々と協働し、主体的・能動的に学ぶ力」の育成が掲げられております。

授業後の学校運営協議会でも話題に上がりましたが、今回の授業参観では、学級全体場で、または個々の子どもたち同士で、自分の考えを発表したり友達と教え合ったりする場面が多くありました。上記のような教育の動向を踏まえて、愛宕小でも授業研究に取り組んでいるところです。



◆第5回学校運営協議会を行いました(1月30日)

今回は、学校アンケート(児童・保護者・地域)の結果について、学校から説明させていただきました。

(学校だより第27号でも掲載済)

そして、そのアンケート結果等を評価指標として、今年度の学校運営の重点項目について成果と課題を説明させていただきました。これを受けて、委員の皆様からいただいた主な意見は裏面に紹介しました。最終的には、委員の皆様からも評価(関係者評価)いただき、次年度の学校経営にいかしていきます。



●生活指導・校内環境整備に関して

☆ 以前は、靴箱から靴が落ちていることが多かったが、夏休み以降くらいから、靴が落ちていることを見かけなくなった。学校での履物をそろえる指導の効果が出ていると感じている。

→ 特に低学年がきちんと入ようとしてきた。ただ、トイレのスリッパは散乱することがある。クラスの係活動として、スリッパチェックをするなどの取組を行っている学年もある。



☆ 子どもたちのなかで、いじめの共通理解ができてきているのか。いじめは先生の気づかないところで行っていることもあるので、子どもたちが安心して先生に話せる環境があるとよい。

→ 嫌な気持ちになっている状況はいじめと捉えている。いじめアンケートを取り、その結果を踏まえて教師と子どもとで話をする機会は大切である。アンケート結果は生徒指導・担任・管理職で情報共有し、対応している。保護者への連絡も行っている。

☆ あいさつに関わって、元気にあいさつできている子も多い。こちらから挨拶をあえて小さな声で控えると大きな声でする子もいる。徐々に自分からあいさつができる子が増えてきている。大人があいさつをすると、子どももあいさつするようになる。あいさつをすることで、子どもの様子もよくわかる。

☆ 生徒指導の項目でマスク忘れについての記載がある。現状、マスク着用は本人判断では。

→ コロナ対応のための日常でのマスク着用のことではない。給食の配膳時間は、衛生上全員着用は変わりなく行っており、その点でマスク忘れの指導をしている。

●学習面に関して

☆ 授業力 UP5 とは？

→ 市教委が示している授業力を向上するための5つの視点。授業又は単元を組み立てる視点として「めあて」「学習活動」「振り返り」「端末活用」「資質能力」の5つを示し、全教職員に配付している。



●読書に関して

☆ 図書の貸出が多いことと読書量はつながらない面がある。また、スクリーンタイムの増加が読書量に影響しているのではないかと。視力低下も気になる。

☆ 親子読書は保護者としては時間が無く、難しい面があるが、できる範囲で少しずつ読むなどしている。読書離れを止めるには、「1ヶ月で1冊読んでください」などの取組や、本を読んで感想を書くこと、読書の宿題があってもよいのではないかとと思う。

☆ 情報端末を使わない時間を設けて、本を読む時間を作る方法もあるのでは。ゲームなど楽しい、簡単な方へ、つい行ってしまう現状がある。

→ 図書まつり等の図書委員会の活動は、図書館利用の活性化につながっており、本に触れる機会となっている。今後、宿題や情報端末の活用の在り方など、検討していきたい。